

保存版

# 水害から

自分の命と、大切な人の命を守るために

寺田縄

# 私たちの避難

ノート

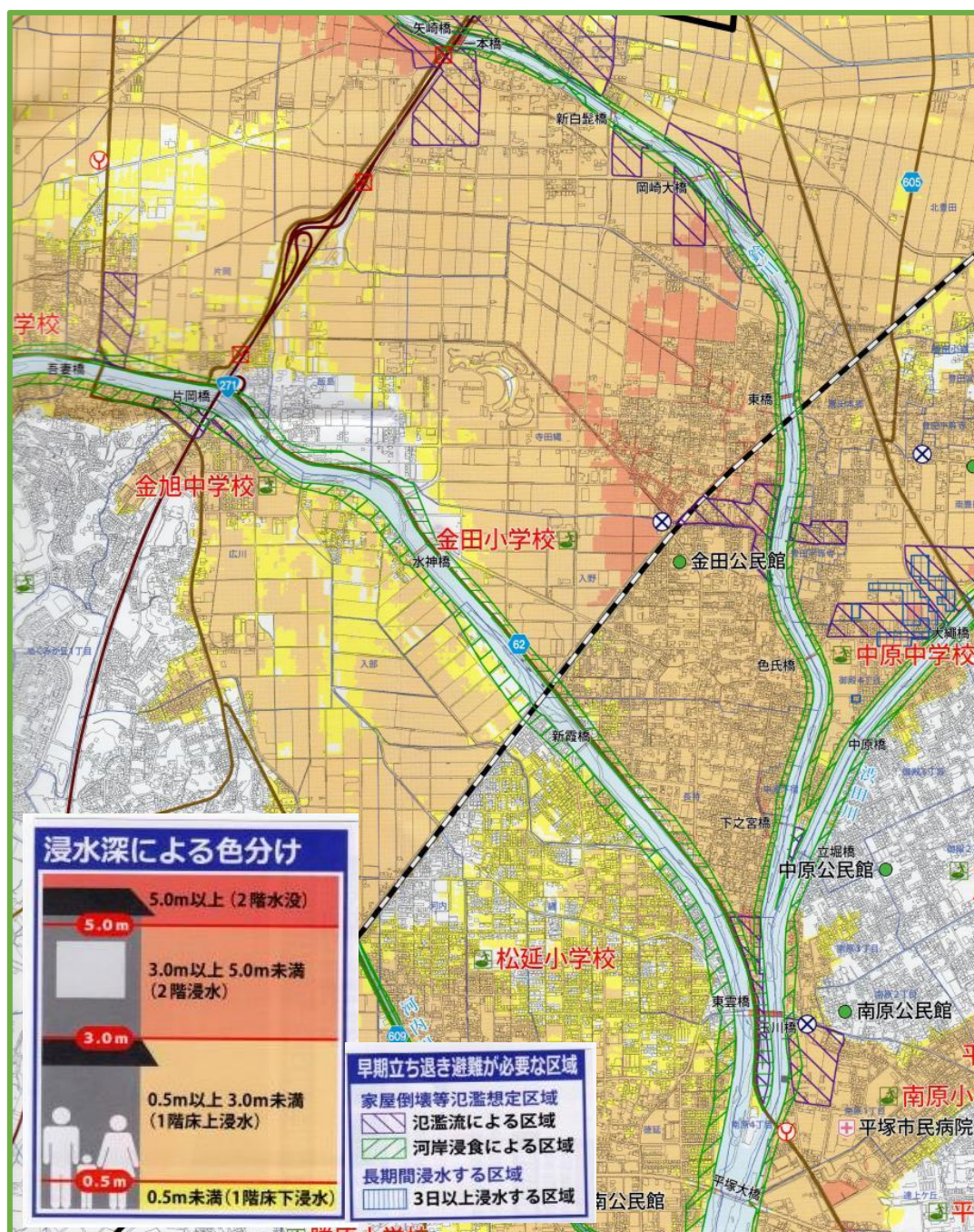
班 組 自治会員 氏名

寺田縄自治会・防災会

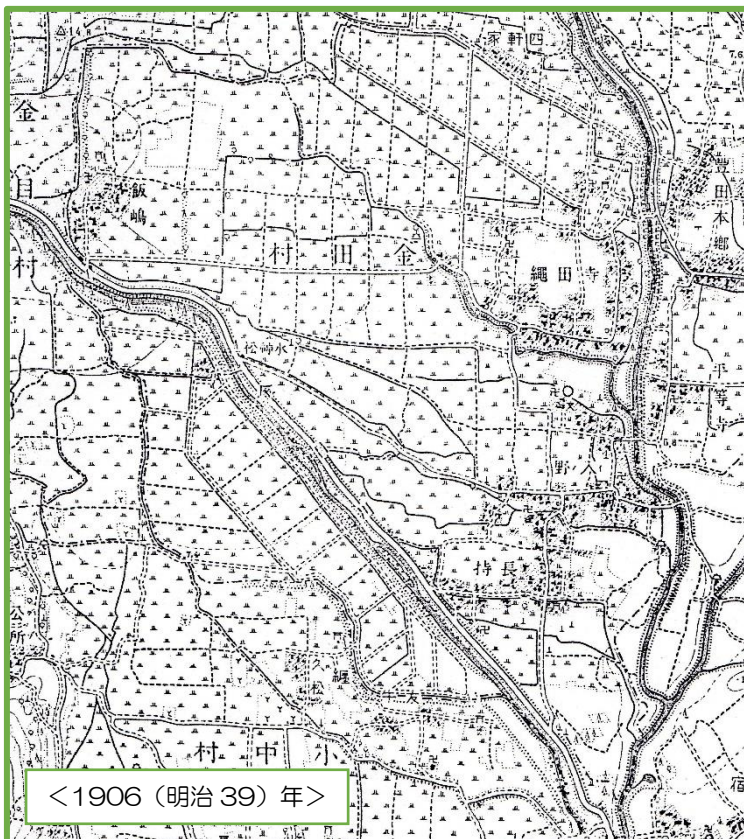
## 6

## 洪水ハザードマップ（金目川水系）

想定される最大規模の降雨（24時間総雨量396mm）によって、金目川水系の河川が氾濫した場合、浸水が想定される区域と浸水深（浸水の深さ）等が示されています。



- 自分の住まいの地点を確認しましょう。
- その場所は  色で、水害の危険度、浸水深は  m
- その場所は、早期立ち退き避難が必要な地域ですか



左地形図は、今から116年ほど前、私たちの住む金田地区です。直線に流れる金目川は、1706(宝永3)年、人々の手をもって堀替えられ、現在も、その流れは同じです。

飯島、寺田、入野、長持の諸村の集落周辺には、広大な水田が分布する純農村地帯でした。

現在、新幹線の南方面に水田はなく住宅が密集しています。

金目川は北西部から南東方向に、鈴川は北部から南方向に流れ込んでいます。

金目川や農業用・排水の流れる方向は、洪水の流れを考える上で重要です。

- 金田地区は、金目川と鈴川に挟まれた地域と金目川右岸地域で構成されています。
- 現在ある住宅地の大半は、明治時代の地図で分かるように、水田が広がり、稲作を主とする水田耕作地帯となっていました。  
そのため、地区内には水田耕作で使用する数多くの用水路や排水路が、現在も住宅地の中を流れています。
- 金目川は、昔から、農業用水を取水する大切な河川となっています。  
現在、金田地区の農業用水の大部分は、飯島集落と金旭中学校の堤防間に設けられた「金目川堰（飯島堰）」から、取水され、利用されています。
- 水田で使用された水は、「古川」、「金田」、「えのしろ」と呼ばれる排水路に集められ、鈴川に流されています。「長持」排水は金目川に流されています。
- 金目川は、近世（江戸時代）期の史料によると、平均して十年に一度の割合で深刻な洪水が起きたとの記録が残されています。秋の台風や大雨による洪水は、収穫を控えた刈り取り前の稲、次の年の種もみを腐らせ、家屋は水に浸かり、水没した水田には、流されてきた砂や石が残され田畑は荒らされてしまいました。
- 洪水の被害から集落や田畑を守るために、「控え土手」を築きました。
- 洪水の被害を繰り返した金目川は「暴れ川」と呼ばれました。  
一方、その水は農業にとって不可欠であるため「命の川」とも呼ばれます。
- 史料は残されていませんが、鈴川の洪水にも悩まされ、被害を防ぐために、流れの改修が実施されてきました。
- 金目川の流れは、地区内の大部分が平地より河床（川底）が高く、ひとたび堤防が決壊すると、水流は勢いよく平地に流れ込み、深刻な洪水の被害を受けやすい地形となっています。このような河川を「天井川」と呼びます。
- 金目川、鈴川の両河川は金目川水系に属し、水源地は「大山」です。  
金目川は、丹沢山地の南斜面で、秦野地域を流れる葛葉川、水無川、室川等を、鈴川は、板戸川、善波川、大根川等の流れを集め、金田地区を流れ下り、相模湾に注いでいます。金目川と渋田川の合流点から下流が花水川と呼ばれています。

- 寺田縄地域を含めた金田地区の避難場所は **金田小学校** が指定されています。
- 風水害の時には、一時的に避難する場所を「指定緊急避難場所」と呼びます。
- 風水害や地震で甚大な被害をうけ、生活するような場所を「避難所」と呼びます。
- 金田小学校には、平塚市の職員が複数人配備され、避難所の運営に当たります。

- 1 金田地区の全景（航空写真と明治39年地形図を比較する）
- 2 金田地区の特徴と避難場所（金目川、鈴川の利水）
- 3 「私たちの避難」目次・東橋水位観測点
- 4 寺田縄自治会・防災会の取り組み（自治会役員・プロモート会員の活動）
- 5 平塚市から発令される「警戒レベル」と「避難行動」
- 6 金田地区洪水ハザードマップ（自宅の浸水深、リスクを確認する）
- 7 避難行動を考える流れ（避難行動判定フロー）
- 8 避難先を考える（避難先として「分散避難」が推奨される）
- 9 避難先を選択する（事前に決める）
- 10 金田小学校指定避難場所・金田公民館への避難
- 11 金田小学校付近の道路の高さ（避難時、道路冠水に注意する）
- 12 金田地区の標高値（土地の高さ、洪水時の水流の方向を想定する）
- 13 金田地区を襲った洪水の被害例（大規模な水害の新聞報道）
- 14 洪水の被害から集落や田畑を守る（「控え土手」を築く）
- 15 避難する時の注意点（移動の方法・携行品等、避難場所の設置備品）
- 16 避難の行動計画（避難するタイムラインを相談して決める）
- 17 台風や風雨の情報をつかむ（平塚市、気象庁からの報道）
- 18 補足（金目川水系、扇状地地形、控え土手規模、新幹線高架、金目・鈴川洪水写真）

## 東橋に設けられている鈴川の水位観測点

